

平成23年台風12号による 紀伊半島大災害について

平成25年2月23日

奈良県吉野郡十津川村

村長 更谷慈禧





十津川村の場所は・・・？



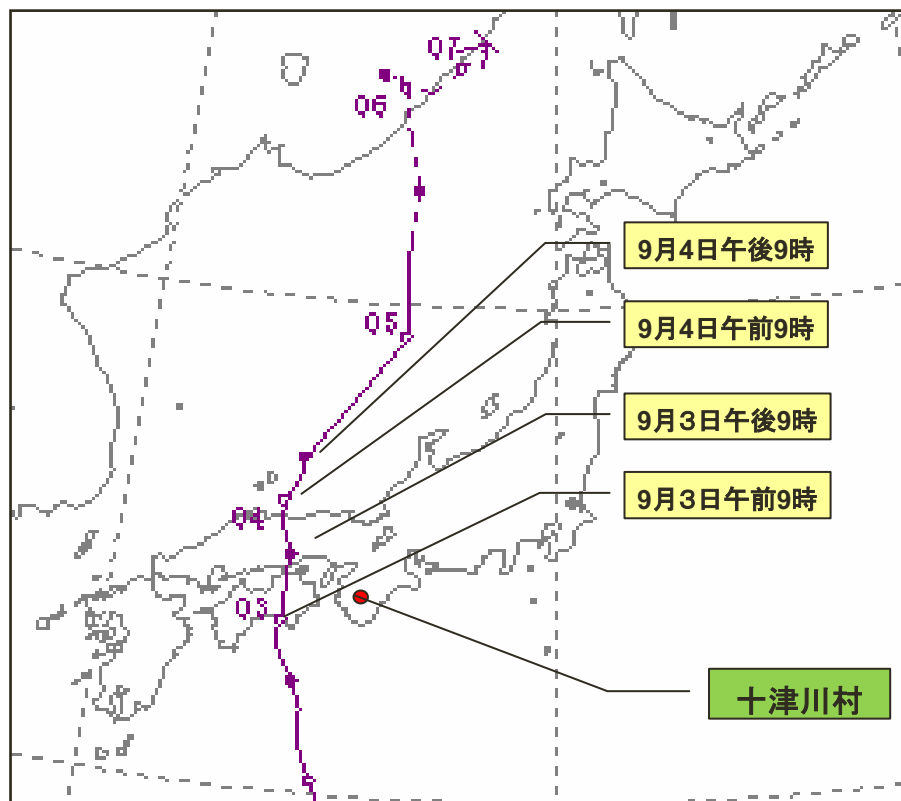
紀伊半島のほぼ中央。
奈良県の最南端

- ◎ 面積 672.35平方キロメートル
- ◎ 奈良県の5分の1 日本一広い村です。
- ◎ 琵琶湖や淡路島よりも大きい
- ◎ 村の96%が森林
- ◎ 急峻な地形の緩やかな部分に集落が点在
- ◎ 過疎・少子高齢化

人口 3,860人 (2月16日現在)



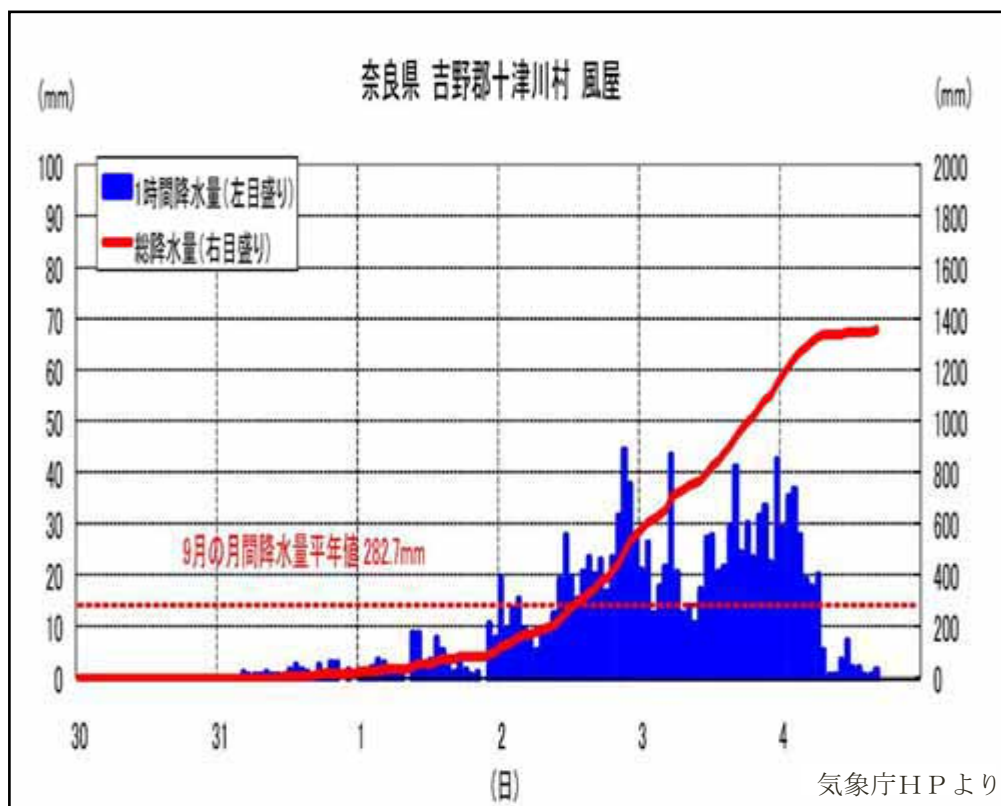
台風12号の状況



- ◎平成23年8月25日 9 時
マリアナ諸島の西の海上で発生
- ◎大型で強い台風
・中心気圧が965hPa
・最大風速が35m/s
- ◎進路
・ 3日10 時前 高知県東部に上陸
・ 4日未明 日本海に抜ける
・ 5日15 時 温帯低気圧へ



雨量の状況



風屋観測局

- ・時間最大44.5mm
- ・降り出しからの5日間で、**1,358mm**の雨量を観測

★ 一部の地域では
解析雨量で**2,000mm**を超える記録的な大雨



河道閉塞と山腹崩壊の状況

**総面積
約260ヘクタール**
に及ぶ山腹崩壊が、村内
各地で発生。



貯水量270万 m^3

崩壊土砂量 約680万 m^3



栗平

貯水量750万 m^3

崩壊土砂量 約1,390万 m^3



折立橋 落橋状況

9月4日 (1時42分覚知)





桑畑 道路崩落箇所





河川の水位上昇

大字小原 十津川中学校付近



平水時



河川の水位上昇

大字小原 十津川中学校付近



9月4日 AM 6:30



道路崩壊 宇宮原バイパス





建物と人的被害の状況



人的被害の状況

死者 7名

行方不明者 6名

重傷者 3名

建物被害の状況

全壊 18棟

半壊 30棟

床下浸水 14棟



台風による問題点

情報不足と孤立

役場職員6割しか出勤できず

そのうち3割は消防団員

マンパワー不足 !



ライフラインの途絶

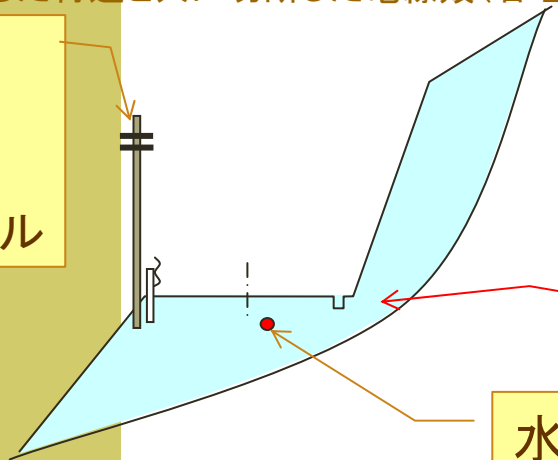


▲崩れ落ちた村道と共に切断した電線類(谷垣内地内)



▲道路の崩壊で作業車両入れず、復旧に遅れ

電気
電話
CATV
光ケーブル



道路崩壊

水道
温泉

山間部での一般的な道路断面

◎ **ライフラインは道路
の崩壊と共に切断！**

▲衛星携帯も
役場に1台だけ！



※ 消防無線とアマチュア無線



国土交通省

地方整備局による支援の状況





自衛隊による支援の状況





奈良県や市町村による支援の状況



▲奈良県現地災害対策本部部員



▲給水等の支援をする市町村職員



災害当初に掲げた信念

最優先
村民の命
と守る

村民の
苦しみ、悲しみ
を理解しよう



災害当初に掲げた信念

村民に安心をもち
為に
国・県・自衛隊
他多くの皆様
支援の事を伝えよう

2011年
◆十津川

力を合せ
頑張りよう

2011年
◆十津川



現在の避難状況

(平成25年2月16日現在)

避難指示

1地域 3世帯 3名

自主避難

5地域 6世帯 16名

仮設住宅

4力所 24世帯 50名

合計 66名 避難中



木にこだわった仮設住宅 1



沼田原団地(1棟・3戸)



湯之原団地(1棟・2戸)



谷瀬団地(3棟・7戸)



平谷団地(6棟・18戸)

奈良県産材90%使用(うち60%は村内産材) 村内業者による施工



木にこだわった仮設住宅 2



板張りの内装



二重サッシ



玄関手摺



杉板の通路は雨の日作業も可能



発生時の状況

情報が伝わらない・入らない

道路は各所で寸断

孤立状態

自分達で助け合い



地域の助け合い

住民共働で道路崩壊箇所仮橋歩道を設置



▲地元住民で歩道(仮橋)を作成



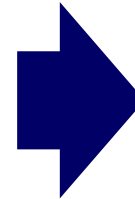
▲地元住民で作成した仮橋



十津川村復興計画

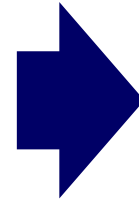
復興計画に向けた取り組み
(自助・共助・公助)

2~3年



生活の再建

10年



十津川村の復興

基本理念

みんなで助け合って
地域の誇りを持って
希望をもてる未来

復興に向けた 主要施策

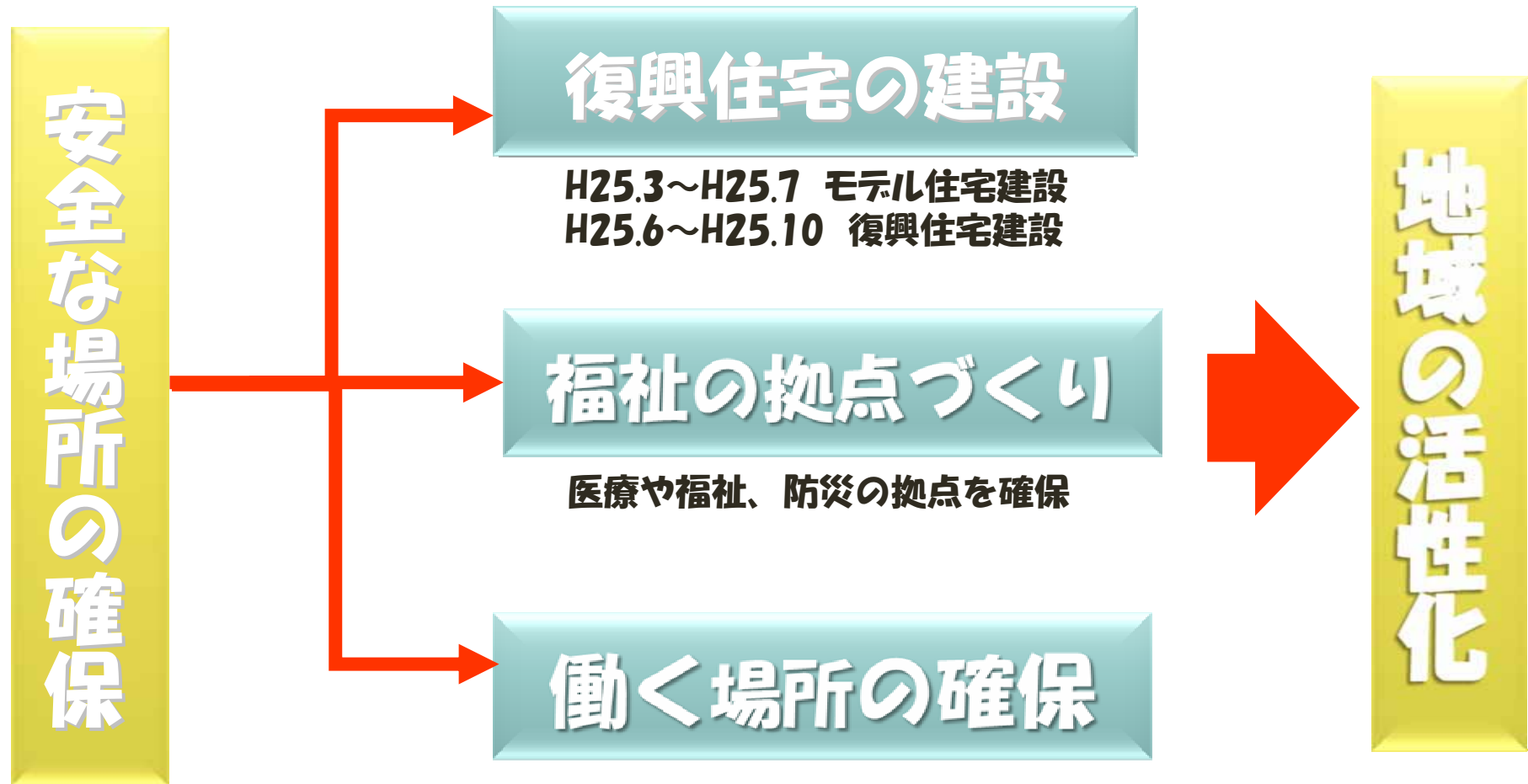
具体的な
復興事業

実現に向けて

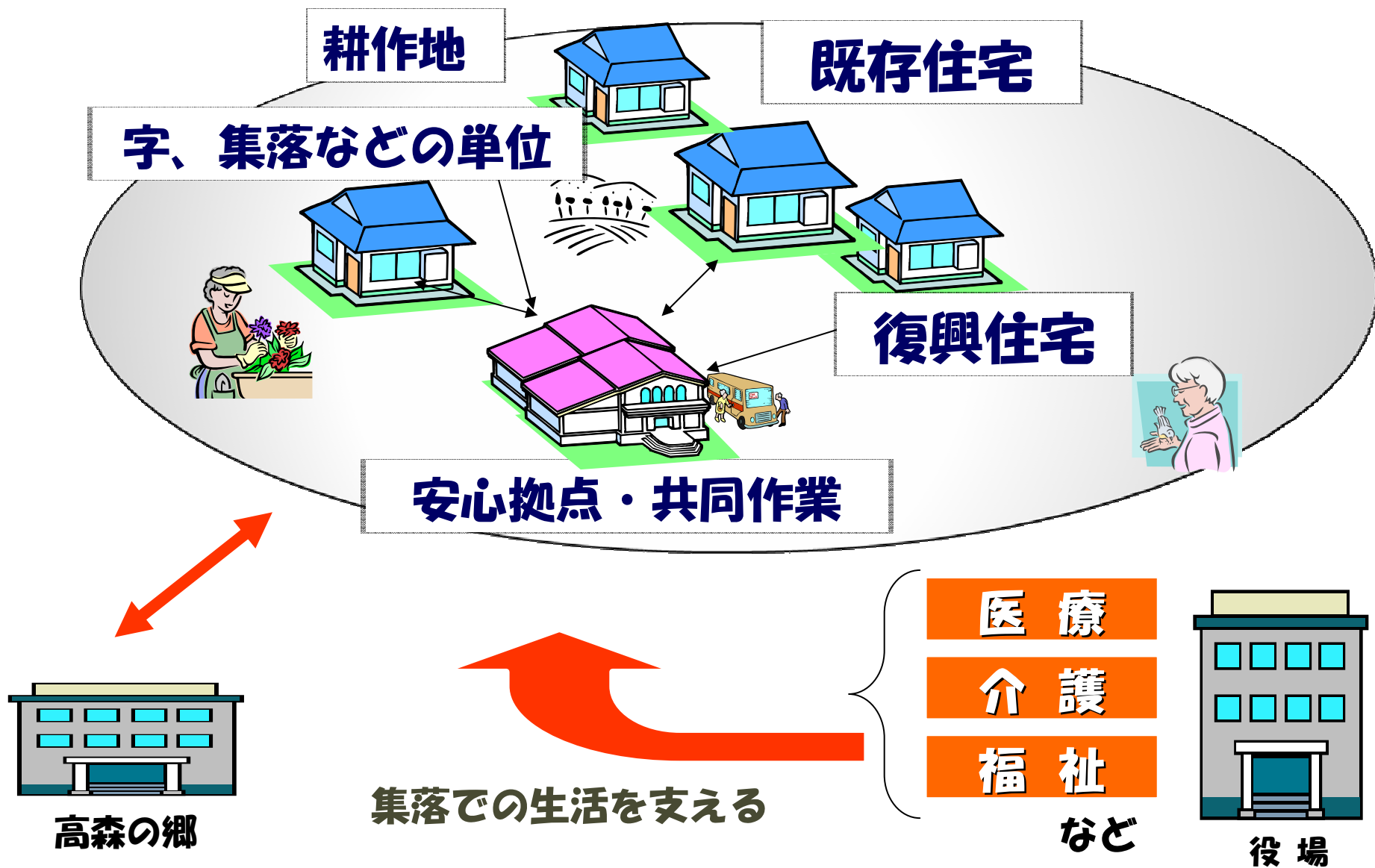
あらゆる機関や
専門家の知恵を活用
情報の共有



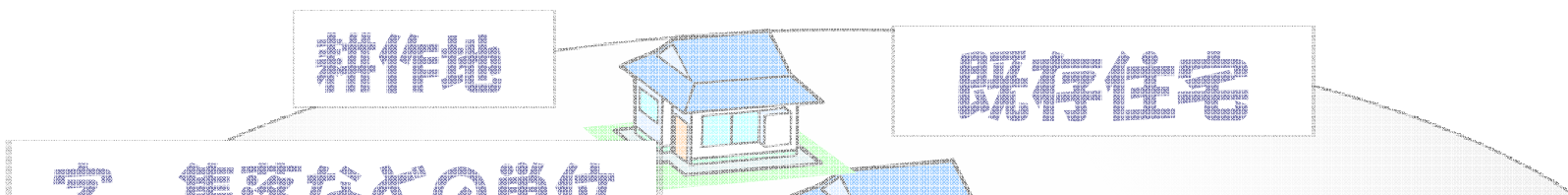
新しい集落づくり 日本の原風景を守る



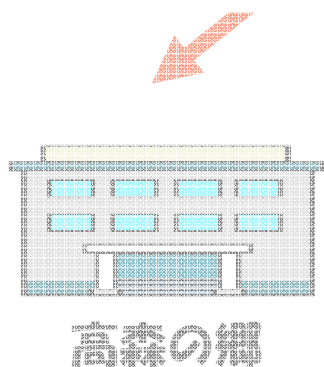
新しい集落づくり(イメージ)



新しい集落づくり(イメージ)

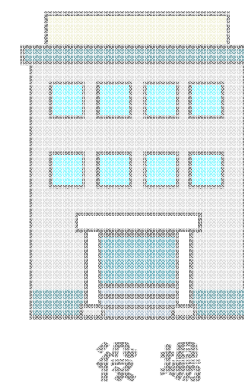


- ◆ やりがい、生きがい、支えあい
- ◆ 生きる知恵、技術の伝承
- ◆ 宿泊・食事
(介護保険に跳ね返らない)



集落での生活を支える

医療
介護
福祉
など





十津川村が存在する 価値・責務

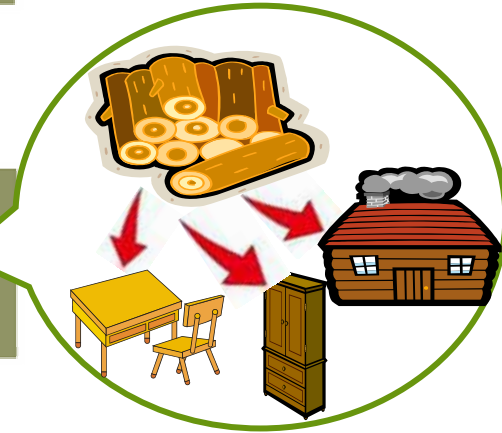
- ◆ 山を守る事
- ◆ 川を治める事
- ◆ 道路をはじめ
ライフラインを守る事
- ◆ 人を守る事
- ◆ 地球環境を守る事

十津川式6次産業

使命・責務



自然への感謝の念
自然への恩返し



林業再生



品質管理
安定供給

ニーズ



共感

十津川村復興大会(5月19日)





時代の潮流・十津川村の使命と責任

- ◎ **大量生産、大量消費の時代は終息し、
シンプルの中に精神的な豊かさを求める。**
- ◎ **十津川村で培われ、
この大切な宝物は十津川村にある。**
- ◎ **省エネ(低炭素住宅)。地域産材の活用**

**この時代の変換期に山を育てる事、
自然と共に生きる事に十津川村は挑戦します。**



今後の課題 1

山腹崩壊箇所への対策

河に土砂を運ぶ根源の復旧





今後の課題 2

河川内堆積土砂の対応

- ◎ 河床上昇に伴いさらなる災害の危険
- ◎ 土砂の搬出先
- ◎ 土砂の運搬方法

◎ ▼ 土砂撤去 前



◎ ▼ 土砂撤去 後





今後の課題 3

■ 深層崩壊対策のあり方

ソフト対策

技術向上
により進歩

- ・調査、探査技術(航空レーザー測量、空中電磁波探査)による危険箇所把握
- ・監視技術(大規模崩壊監視システムなど)による発生位置の特定

しかし

ハード対策

発生後の被害軽減・復旧が主体

予防的な対策は確立されていない

今後

- ◆ 予防的な対策が可能となるよう
対策技術の向上と事業・制度の改善が必要
- ◆ 中山間地域を守ること国土の保全と
住民のくらしにつながる





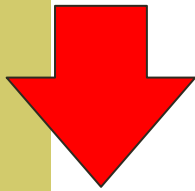
今後の課題 3

ハード対策の必要性

地すべり認定で工事開始



工事開始



地すべり非認定



(集落上部のクラック)



経過観察だけでは不安な生活

予防的ハード対策も必要である



今後の課題 3

深層崩壊箇所

大字長殿(濁川谷)

◎ 深層崩壊前



◎ 深層崩壊後





今後の課題 3

■ 深層崩壊対策のあり方

安心・安全な地域
三位一体の整備

砂防

道路

河川



林業振興



世界遺産 小辺路

観光振興

過疎からの脱却



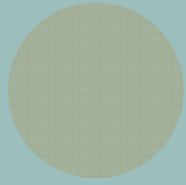
災害を受け 行った見直し

今回見直し 今後の課題

見直し項目	防災関係機関	《協働・連携》	十津川村役場	《協働・連携》	住 民
体制			災害対応体制 災害対応体制の見直し		自主防災組織の結成・充実
情報	奈良地方気象台 県防災統括室 砂防課	気象情報収集 気象情報早期収集の徹底	住民避難 避難勧告指示の発令見直し	情報収集・提供 大字に衛星携帯電話配備 安全な避難場所の見直し	
支援 (人的・物的)	市民生活協同組合 ならコープ	救援物資 救援物資の供給先確保 他市町村との広域応援			
災害対応 (予防・応急対応)	国 県 市町村 警察 消防 自衛隊 民間企業	受援計画 受援計画の策定	応援災害対応 災害対応の手順の確認 受援業務マニュアル	(国・県等の応援職員)	
	安心安全な道路の整備				
	紀伊半島大水害からの教訓を今後の対応に生かす (災害の備えと災害時の対応)				



みんなが
笑顔になれる
むらづくり



ありがとうございました